

## 平成 23 年度事業報告 総 括

いわて県民計画（平成 21 年度～30 年度）が目指す「豊かなスポーツライフの振興」を基本目標に、競技スポーツの振興と生涯スポーツの振興を図るため、加盟団体等との相互連携のもと計画的かつ効率的に各事業を実施した。

重点目標の一つである「競技スポーツの推進」では、「平成 23 年度岩手県体育協会選手強化方針」の具現化に向けて「がんばれ！いわて選手強化事業」や「雪国スポーツの育成強化事業」で、有望な競技の優秀選手を対象に強化合宿、県外交流を積極的に実施したほか、子供達の夢実現の手助けを通じて将来のトップアスリートの育成を目指す「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」、更にスポーツ医・科学サポート事業により、スポーツドクター、トレーナーを強化合宿・国体等のホッケー・ウエイトリフティング・ボクシング競技などに派遣し、競技力向上のための総合的なサポートを実施した。

東日本大震災津波の影響により、強化事業の実施が困難な時期もあったが、加盟競技団体をはじめとする関係団体と連携を図りながら強化事業を推進した。第 66 回国民体育大会においては、男女総合成績の天皇杯順位目標を 23 位としたが、結果は昨年の成績を大きく下回ってしまい、41 位という残念な結果となった。前年に比べ、成年層（成年男女共 43 位）・団体競技の得点が大きく減少したことが影響した。少年は、8 月に北東北で開催されたインターハイに向けて強化してきたこともあり、種別毎の順位では少年男子が 27 位、少年女子が 39 位と健闘した。

12 月には、保留となっていた「第 71 回国民体育大会・いわて国体」の開催が正式に表明され、復興のシンボルとして位置付け、開催に向けて、「県民」「企業」「団体」等の協働を基本とした取り組みが行われることとなった。71 国体に向けての選手強化策としては、「国体強化委員会」が新規に組織されることとなり、今後は、新強化計画に基づき、関係諸団体との連携を一層深めながら、本県スポーツの競技力向上を図ることとなった。

生涯スポーツの振興では、スポーツ少年団活動において、「日韓青少年夏季スポーツ交流」や「2011 日中青少年スポーツ指導者交流事業」を実施した。団員を対象にしたリーダー養成事業及びスポーツ少年団認定員養成講習会を開催し、指導者の資質の向上に努めた。スポーツ少年団活動に関するアンケート調査は、4 年目を迎え昨年に引き続き市町村スポーツ少年団本部に対し、研修会の開催を促すとともに、本年度は県本部から 2 市村に講師を派遣するなど良好な少年団活動の維持に努めた。

「総合型地域スポーツクラブ育成事業」では、1 名のクラブ育成アドバイザーを配置し、市町村への総合型スポーツクラブの設立に向けた普及・指導活動を行い、新たに 7 つのクラブが設立された。また、県内に設立された 52 クラブを会員とする「岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」の充実に向けて、クラブ間の一層の交流と活動の促進に努めた。

スポーツへの県民意識の高揚の観点からは、賛助会費選手強化等支援事業を通じて、国体出場競技に対しコーチの増枠を支援したほか、優秀な成績を収めた選手に対する顕彰事業を実施するとともに、県又は県体協からの財政的支援を受けていない競技団体に対し主催事業費の一部補助などにより競技団体の活動を支援した。

また、被災された多くの方々を支援し、被災地におけるスポーツ活動が 1 日でも早期に再開できるよう願いながら、震災募金の窓口となり、沿岸被災地 12 市町村の体育協会、スポーツ少年団等に送金した。

3 月には本協会ホームページに「いわてスポーツイベントカレンダー」を新設し、県民の誰もが「する、みる、ささえる」スポーツに親しむ機会や場が提供できるよう整備をスタートさせた、今後充実に力を注いでいきたい。